

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年 3月 25日

事業所名 リッケラボ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		十分な訓練スペースの確保ができています。	個別での対応ができる場所の確保をしていく。
	2	職員の配置数は適切である	4	1	利用児童に対して適切な人員確保ができています。	情報を求められる保護者様に対しては開示していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1	4	生活空間は児童に分かりやすく構造化されている。バリアフリー化はされていない。(身体障害児、車椅子の児童は現在利用していない)	今後身体障害児や車椅子児童が利用する際に備え、バリアフリー化を検討していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		毎日の清掃を通して清潔に保っている。活動に合わせた空間作りに努めている。	今後も毎日の清掃を行い清潔を保ちながら、児童の活動に合わせた空間作りをしていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		毎日職員会議をしながら振り返りができている。	今後も引き続き行っていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		アンケート調査の結果を受け止め、業務改善につなげている。	今後も定期的にアンケートを実施して業務改善に取り組む。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		まだ実施していない。	このアンケート結果をホームページ等で発信していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	第三者からの評価は受けていないが、他事業所からのアドバイスは取り入れ業務改善につなげている。	外部からの評価を検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		外部への研修の参加をしている。	今後も引き続き参加していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		アセスメントを適切にした上で児童発達支援計画を作成している。	今後も引き続き行っていく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		アセスメントシートを作成し統一した評価でアセスメントを行っている。	質の高いアセスメントのためにツールの改善をしていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		児童発達支援計画には児童発達支援ガイドラインに沿った個々の児童の課題が設定されており、具体的な支援内容が記載されている。	今後も継続してガイドラインに沿った児童の課題を設定し、記載していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		個々の児童発達支援計画に沿った支援が提供されている。	今後も児童発達支援計画に沿った支援に努める。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5		活動プログラムの立案を職員で話し合いながら行っている。	今後も引き続き行っていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		子供たちが飽きないようにプログラムを組み立てている。	今後も子供たちが飽きないようなプログラムを組み立てていく。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5		組み合わせながら作成ができています。	集団に参加できない児童の支援をより充実させていく。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		児童の来所前に職員間で打ち合わせ、支援の内容など確認できている。	今後も打ち合わせをしていき質の高い支援を心がけていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		児童が帰所後に職員間で振り返りができている。	今後も引き続き行っていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		児童発達支援計画に基づき記録を取ることができている。	今後も計画に基づいた記録を心がけていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		半年に一回保護者とのモニタリングを行い、見直しをしている。	保護者様の希望がある際には期間などにかかわらず支援計画の見直しを検討していく。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		サービス担当者会議には児童の状況に精通した職員が参画できている。その職員が参画できない際には事前に情報共有を行	今後もその児童の状況に精通した相応しい者の参画に努める。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	3	児童の相談員を通して連携した支援を行っている。	今後も児童の相談員を通し、連携した支援を行う。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		5	医療ケアが必要な児童がいないが、利用児童が通っているOT、STの同行を通して連携体制を整えている。	医療ケアが必要な児童が通所した際の連携体制を整えていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		5	医療ケアが必要な児童がいない。	医療ケア児の受け入れの際に連携ができるように努めていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		保育園、幼稚園、認定こども園との情報共有をし、相互理解に努めている。	今後も情報共有をし、相互理解に努める。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5		小学校や支援学校との情報共有をし、相互理解に努めている。	今後も小学校や支援学校との情報共有をし相互理解に努める。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	4	研修に参加している。	今後も研修に参加していく。必要であれば連携もできるように努める。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4	実施を検討	地域だけでなく、保育所や認定こども園との交流ができるように計画をしていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5		地域で行われている協議会へ参加している。	今後も引き続き参加をしていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		送迎児の引き継ぎ、電話、メール、LINEなどを通して児童の状況、課題などについて共通理解ができている。	今後も引き続き行っていく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	1	4	個別での助言しか行っていない。	ペアレントトレーニングのための研修などを行っていく。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		契約時に丁寧な説明を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		作成した児童発達支援計画を保護者様に確認してもらい、支援内容を説明し同意を得ている。	今後も保護者様に確認してもらいながら同意を得ていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		児童への関わりや家庭での相談に応じて、一緒に考え助言を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	開催できていない。	オンラインでの取り組みなどを検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		保護者様の仕事の都合に合わせてながら受け入れ時間の変更や申し入れについて対応している。	今後も引き続き行っていく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	3	活動概要、行事予定など発信できていない。	ホームページ作成、会報の発行を検討していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		鍵付きのキャビネットで個人情報ファイルを管理している。	今後も引き続き行っていく。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		児童に対してはイラストや写真の提示をし、保護者様に対しても口頭での説明、文章での通達をし配	今後も引き続き行っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	事業所の行事に地域住民を招待することができていない。	事業所の行事に地域住民を招待することができるように努める。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		マニュアルを作成し緊急時の対策に取り組んでいる。	作成したマニュアルを保護者にも周知してもらえるように努める。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		定期的に避難訓練を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		サービスが始まる前に保護者に確認し対応している。	今後も継続して確認し対応していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	医師からの指示書に基づくアレルギーがある児童がいない。	今後アレルギーがある児童の通所がある際には医師の指示書に基づく対応を検討していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	3	実際に起こったケース、想定される事例をもとに会議で共有を行っている。	今後も引き続き行っていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		定期的に虐待防止研修を受けている。	今後も引き続き行っていく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		現在身体拘束が想定される児童がいない。	身体拘束が想定される児童に対しては支援計画にも記載していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。